

10年目のお礼

ある患者さんが、初めて京大病院を受診してから10年経って、外来の受付に来られ「10年前に大変お世話になりましたものです。〇〇先生にお礼を伝えてください。」という伝言を残していかれました。

医師は、10年前に初診外来で一度だけその患者さんを診察していました。症状がコントロールできないとして受診された慢性疾患の患者さんでした。医師は標準治療を説明した上で、標準治療を受けたくなかった理由を聞いて、患者さんの心情に理解を示しました。入院して時間をかけ、心理的なケアをしながら、標準治療の効果に気づいてもらうことが必要だと考え、治療の計画を立て、入院チームに引き継ぎました。

患者さんは、標準治療により病状が改善されされたのでしょうか。10年経って、初診の医師に感謝の意を伝えたい心境になられたのでしょうか。

もしかしたら、標準治療ではなく、「もっと良い医療」を求めて、大学病院に来院されたのかもしれませんが。時間をかけて、遠回りされたかもしれませんが、標準治療で病状が改善されて、患者さんも満足されてよかったなと思われるエピソードです。

標準治療



標準とは「並み」？「最良」？

私たち大学病院には、新しい医療の開発という使命があります。通院される患者さんから、その期待をいただいていると思います。

ただ、新しい医療の開発を最初からお勧めすることはありません。患者さんには標準治療をまずお勧めします。標準治療という言葉を知り、最新の医療を受けるために大学病院に来たのに「一般的な医療」ですか？という印象を持たれるかたもおられるかもしれません。

治療にランクがあり、その中の並が標準治療、と考える方もいらっしゃいますが、標準治療は、その時点で、多くの医師の支持を得ている最良の治療です。多くの治療経験が論文などの形で公表され、蓄積され、それを医師は活用しています。新型コロナウイルスの例でも、短期間に全世界が治療経験を蓄積し、学んできて、この時点での最良の治療＝標準治療を提供しています。

一人の医師の経験の量には限りがあります。それが、全世界の経験を集めることで、標準治療を確立することにつながります。

みなさんが新しい治療の説明を受けた際には、「標準治療は何ですか。新しい治療と標準治療はどこが違いますか。両者のリスクの違いを教えてください。」と、医師にお聞きされるとよいと思います。